

令和3年度未来につながる持続可能な農業推進コンクール表彰者一覧（九州農政局関係）

1 農林水産大臣賞

市町村名	応募者氏名	応募タイトル	部門
長崎県南島原市	農事組合法人 ながさき南部生産組合	安全な食べものを 長崎の大地から	有機農業・環境保全型農業

2 農産局長賞

市町村名	応募者氏名	応募タイトル	部門
熊本県玉名市	株式会社 鷹本農産	時代最適な農業経営を支える GLOBALG. A. P.	G A P

3 九州農政局長賞

市町村名	応募者氏名	応募タイトル	部門
熊本県山都町	西山 幸司	挑戦、実行、改善で有機農業の 里づくり	有機農業・環境保全型農業

農事組合法人ながさき南部生産組合

有機農業・環境
保全型農業部門

農林水産大臣賞

所在地：長崎県南島原市

面積：222ha

構成員：143人

栽培品目：たまねぎ、トマト、ぱれいしょ 他

取組の紹介

【環境と調和した農業の着実な発展・継承】

- 1975年に、農業者5名で結成した有機農産物の産直グループが、構成員143名、222haを営農する団体に発展。栽培技術指導や経営講座の実施など、若手農業者を育成する組織的な取組を行い、構成員の現在の平均年齢が57歳と着実に経営を継承。



経営を継承する若手農業者

【持続的な農業生産の推進】

- 島原半島内の畜産農家から調達した堆肥を、土壌診断結果に基づき使用し、有機物資源の地域内循環を推進。
- ほ場ごとに、有機農業の実施や、化学農薬の低減割合等を登録。取組ごとに4区分の商品ラベル（有機JAS、化学肥料・化学農薬不使用、化学農薬不使用、化学農薬半減）を使用し、正確な情報をシンプルに伝えることで、消費者の信頼を確保。



店頭における商品ラベルの説明

【地域内の多様な販路の確保】

- 直売所「大地のめぐみ」を運営する他、地元流通業者と連携し、九州圏内の大手スーパー等36店舗にインショップを開設するなど、多様な販路を確保。
- 収穫体験やかかしコンテストなど、地域に根差したイベントを開催する他、南島原市の農泊事業にも参画し、地域内外の多様な消費者へ環境保全型農業の取組を発信。



直売所「大地のめぐみ」

HP・SNS等

HP: www.tentoumusi.net

所在地：熊本県玉名市

面積：施設ミニトマト 3.2ha

認証：GLOBALG. A. P. (H27 ミニトマト)

構成員：常勤 28名(うちパート 22名)

応募区分：個別経営の部

栽培品目：ミニトマト、米、麦

取組の紹介

【GAPに取り組んだきっかけ】

- 熊本県が主催する農業経営塾で GAP を知り、自社の経営が改善され強みになると考え、平成 27 年、ミニトマトで GLOBALG. A. P. 認証を取得。

【GAPの継続に向けた取組】

- 子育て中のパート従業員が働きやすくなるよう、出退勤時間の自由化等、柔軟な勤務体制を構築。
- 規模拡大による労働量の増加に対応していく中で、日頃からパート従業員とコミュニケーションを図り、意見や要望を聞き取り。パートマネージャー等のポストを用意し、作業計画の作成等、経営に積極的に参加してもらうとともに、待遇を改善。従業員と話し合い、通年雇用できる作型を独自に構築し、規模拡大に伴いパート従業員を 1 名から 22 名に増やす間の離職者はわずか 3 名と高い定着率を実現するとともに、同程度の規模の経営に比較し 1 割程度少ない従業員での農作業を実現。
- 全ての栽培履歴の記帳をアプリで行うことで記帳負担を軽減。作業の進捗や年間スケジュールは SNS を通じて全従業員で情報共有。
- ハウス（面積計 3.2ha、103 棟）のほ場が県下の 9 箇所に分散しており、全ての箇所で手洗い設備付きトイレを常設。

【GAP 認証農産物の生産拡大に向けた取組と効果】

- GAP 認証取得後の 6 年間で、備品、消耗品の在庫管理、機械のメンテナンス等を計画的に行うとともに、IPM を推進し、殺虫剤使用量を県慣行比 8 割減、殺菌剤使用量を県慣行比 2 割減。
- GAP 認証取得時は収穫量が 33t/年であったが、GAP 認証農産物であることを売りに販路を拡大し、認証取得後 6 年間で 199t/年まで収穫量を拡大。

【地域への波及】

- 自社生産のミニトマトのほか、地域でミニトマトを生産する農業者 8 戸の出荷も行い、8 戸に対して GAP 認証の取得に向けた指導を実施。



アプリでの記帳、情報の共有



県下9箇所のほ場に
清潔なトイレを設置



地域の農業者に向けた
GAP 講演会

西山 幸司 氏

有機農業・環境
保全型農業部門

九州農政局長賞

所在地：熊本県上益城郡山都町
応募区分：個別経営の部

面積：3.7ha
構成員：4人
栽培品目：にんじん、ばれいしょ、にんにく等

取組の紹介

【有機農業の継承】

- 有機農業を営む義理の両親から廃業の相談を契機に、平成19年就農を決意。
その後、脱サラし、県立農大等で農業を学び、平成21年有機農業2.1haを継承し、現在、家族2名と従業員2名により、有機JAS認証取得のほ場3.7haにおいて多品目の有機農産物を生産・販売。



地域資源を利用した自家製のバイオ堆肥

【地域資源による土づくりの推進】

- 土壌分析結果を基に施肥設計ソフトを活用した施肥設計を行い収量向上と安定化を構築。
- 地域の畜産堆肥、籾殻、米ヌカ、屑米、落ち葉に微量ミネラル資材を材料として、自家製の微生物活性液を加え、バイオ堆肥を自家調製。



(株)肥後やまとのメンバー

【販路の確保・有機農業者の育成】

- 平成23年販売先の新規開拓や共同出荷によるコスト削減を目指し、「山都町有機農産物出荷協議会」を立ち上げ後、平成25年に他社と事業統合を経て、平成28年に山都町最大の有機農産物集出荷プラットフォーム「(株)肥後やまと」の法人化に携わった。
- 令和元年に、若手有機農業者育成のための「Organic 山都」を設立し、有機農業技術セミナーを開催（参加者延べ220名）。



有機農業技術セミナーの様子

HP・SNS等

facebook : <https://ja-jp.facebook.com/koshi.nishiyama.5>